

http://www

この号の内容

- 1 Zoom Webex 関連の
フォーム設置案内
- 2 Google ドライブを
利用したファイル
公開方法
- 3 データダイエット
への協力

【本ニュース発行主体】

HOSEI2020 オンライン授
業支援特設チーム（教学
統括副学長のもとに2020年度
オンライン授業を支援する目
的で設置）

【事務局】

総長室付教学企画室

Zoom・Webex の授業でのご利用に関するフォーム 設置しました

今後本ニュースでは、Zoom, Webex の授業でのご利用に関する FAQ 作成を予定しており、また本チームや学内の他の場で、Zoom, Webex のご利用に関する講習会や情報交換会も開催する予定です。

それらの取組、企画の参考にさせていただくことを目的に、以下にフォームを設置しましたのでご案内します。

<https://forms.gle/Ahv8YSe7u1svGrvP6>

授業における Zoom・Webex の利用に関して、FAQ や講習会で取り上げて欲しい内容（このようなことを知りたい、聞きたい、やってみたいなど）がございましたら、こちらに記載の上、ご送信ください。

なお、いただいた内容は上記の目的で活用させていただきますが、個別の応答はいたしませんので、その点はどうぞご了承ください。また、Zoom, Webex のアクティベーションや、学習支援システム等に関する窓口はこことは別になりますので、フォームに記載した各問いあわせ先にご連絡をお願いします。

教員が Google ドライブを利用して、学生にファイルを簡便に公開 する方法が公開されました

<https://netsys.hosei.ac.jp/kyoshoku/info/info20200504i01.html>

本ニュース vol.1 で、「大容量ファイルのドライブ環境整備予定」として、Google Drive について、「従来から大学として契約済みでファイル容量無制限で使用可能ですが、現時点では、学生とのファイル共有のためには、学生一人一人を指定する必要があります。共有範囲を法政大学の学生全体として、学内限定でファイルを配付できるように設定変更を行います。この作業完了は連休明けとなる見込みです。」とお伝えしました。このたび、その作業が完了し、上記リンクで手順書が公開されましたのでお知らせします。

詳しくは、手順書をご覧くださいと思いますが、要点は、

全学生が登録された Google グループ”all-stu@stu.hosei.ac.jp”を利用して、教員の Google ドライブでファイルを共有できる点です。

これまで、学習支援システムにはファイル容量制限（1 ファイル 20MB まで）があり、他方で Google Drive の場合は、容量無制限ながら、ファイル共有のためには教員が受講学生一人一人を指定する煩雑さがあることから、大規模授業では使いづらかったと思います。

今回この全学生登録グループを利用することで、大規模授業における大容量ファイルの保存と提示の簡潔な方法が用意されたこととなります。

ただし、Google グループ”all-stu@stu.hosei.ac.jp”で共有した場合、本学の全学生が閲覧可能となりますので、共有するファイルには細心の注意を払い、情報漏洩が発生しないよう、気を付けてください。

なお、本ニュースと別に発行しました「Google Classroom の活用かんたんガイド」(4月28日)では、本学アカウントから Google Classroom を利用することで、当該授業の履修学生だけに限定して、大容量のファイルを保存・提示する方法についてお知らせしています。

<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal/site/-911267/tool/36abe83f-4692-44f8-9fa6-0d0d3d2bff3f?panel=Main>

本学全学生が閲覧可能となることは避けたい場合は、こちらをご参照ください。

データダイエット

5月8日、国立情報学研究所で継続開催されている「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム実行委員会」名で、遠隔授業を主催される先生方を対象に、右の「データダイエットの協力のお願い」が示されましたのでご紹介します。

オンライン授業で通信量(データ量)が極力小さくなるようつとめることは、社会的責任であると指摘し、

以下の通信量に配慮した授業方法 5 箇条への協力を要請しています。

1. 不要なカメラのオフ
2. 映像は資料提示中心に
3. 授業すべてをライブにする必要はない
4. ネットワークが空いている時間帯の有効活用
5. 学生の主体的学びにネット接続は必須でない

ぜひ参考にしてください。

第7回「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」(5/8 オンライン開催)にて提示

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/#07>

データダイエットへの協力のお願い：

遠隔授業を主催される先生方へ

情報通信回線は全国民が共有する有限の資源です。通信量が情報通信回線の限界を超えるとすべての利用者が大きな影響を受けます。1600万人の生徒・学生が、この世界的な災禍の中でも十分な学習ができるように、「データダイエット」に協力しましょう。

1. オンライン授業は通信量(データ量)が極力小さくなるように工夫しましょう。
2. 空いた通信回線の容量は、小学校低学年など Face-to-Face が必要となる教育や障がい者への合理的配慮など必須の分野へ使ってもらいましょう。

具体的な通信量に配慮した授業の実施・設計手法

1. 先生が話す映像を送信する必要はありません。講義中、自分の顔や書画カメラを動画で常時流しておいたりすると通信量は多くなります。学生のカメラもオンにし続けると通信量が増えます。不要なカメラはオフしましょう。
2. 画面共有による資料提供中心の授業は通信量が大幅に少なくなります。先生が黒板の前で動き回る授業はデータ量が非常に増えます。
3. そもそも授業の全ての部分をライブで行う必要はありません。授業時間を、
(ア) 教員と学生との双方向のやり取りを行う(ライブ)部分
(イ) 教員からの一方向の情報伝達の部分
(ウ) 学生が問題を解くなどの主体的な学びを行う部分
に分けて設計し、双方向のやり取りを行う部分を短くすることも可能です。
4. 教員からの一方向の情報伝達の部分は事前に録画し、ネットワークの空いている時間帯、早朝などにダウンロードを指示することも出来ます。予約してダウンロードさせることもできます。
5. 学生が問題を解くなどの主体的な学びを行う部分はネットワークにつなぐ必要もありません。